

以上で田原議員の質問が終わりました。

暫時休憩します。

再開を11時20分といたします。

(午前11時12分 休憩)

(午前11時20分 開議)

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。〔2番 東野恭行君登壇〕

○2番（東野恭行君）

おはようございます。清政クラブの東野恭行です。

発言通告書にのっとり1回目の質問をいたします。

1、ジオサイトの活用によるインバウンド特需の可能性について。

(1) 2009年8月に日本初世界ジオパーク認定を受けた糸魚川。しかし、自然景観9カ所の平成28年度観光入込客数は、前年比89.8%と低調。今後、大地の公園糸魚川ジオパーク認定の冠をどのように生かしていくのか伺います。

(2) ジオパークを売りとする糸魚川市において、2020年東京オリンピック開催までに、どれだけの観光入込客数を見込んでいるのか伺います。

(3) 全国的にも有名で、難易度が高い壁とされる明星山大岩壁P6南壁を活用した誘客の可能性について伺います。

(4) 市内を含む全国の山岳会などで活躍される方を「地域おこし協力隊」として招き、山岳コースなどの調査・設定・運営・情報発信を行い、特定のマニアを狙う観光の基盤整備は検討できるか伺います。

(5) これら提案を実践するための行政の役割、民間の役割はどのようなことだとお考えか伺います。

2、産官学金連携の地方創生について。

(1) 産官学金の連携によって糸魚川市に及ぼされるであろう影響はどのようなものか。現在、連携は進んでいるのか。

(2) 地域の「稼ぐ力」を引き出すに当たり、「官」はどのような役割を果たすのか。

3、市民が集う「にぎわい創出広場」の活用と今後について。

(1) 年内に全4回のにぎわいチャレンジミーティングが行われる予定だが、既に現在3回行われていて、参加された女性・若者から出た広場のにぎわいイメージと、設備として何を求めているか伺います。

(2) にぎわいチャレンジミーティングにおいて意見集約されたものを生かし、最終的に空間をデザインし配置図を完成させるとあるが、それらは実現性の高いものなのか。

(3) 近隣に住んでおられる方々や商店街、商工会議所との合意形成は図られているのか。

4、地域高循環型社会の形成について。

(1) 地元消費することの必要性は行政職員の皆さんも十分感じておられると思いますが、行政職員に対し、どのような地元消費の喚起を行っているのか伺います。

(2) 地域高循環型社会を形成するには、「売り手の努力」と「買い手の意識」が重要であると考えます。それらを踏まえた中で、糸魚川市民として行政職員ができる行動は何か。

以上で1回目の質問を終了します。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

東野議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、海外ジオパークや外国ネットワークとの交流を進め、糸魚川の自然や歴史、文化などの魅力を体感していただき、発信していくことにより、誘客につなげてまいります。

2点目につきましては、総合計画において、31年には外国人宿泊客数3,000人を目標として進めております。

3点目につきましては、明星山の犬岸壁、南壁の知名度を生かした情報発信を行うとともに、ロッククライミング箇所についても観光コンテンツの1つとして紹介し、誘客に努めてまいります。

4点目につきましては、現在市内の山岳会等と連携をしながら山岳コースの整備、誘客に努めておりますが、専門性が高いため、今後、地域おこし協力隊の活用についても検討してまいります。

5点目につきましては、行政は情報発信を中心に、民間の皆様は受け入れ体制を中心に役割分担をしながら官民一体となって取り組んでいくことが重要と考えております。

2番目の1点目につきましては、糸魚川なりわいネットワークや糸魚川創業支援ネットワーク、海洋高校の取り組み事例など、連携が少しずつ地域内に浸透してきており、地域の特色ある資源を生かした商品開発や販売など地域振興やキャリア教育の推進につながっております。

2点目につきましては、稼げる自然循環のまちづくりのため、産学官金労言のネットワークづくりと地方創生に関する情報共有を図っていくことと考えております。

3番目の1点目につきましては、過去3回のワークショップでは、親子連れなどの市民が各種イベントを楽しんでいるイメージや広場での活発な商業活動により、にぎわっているイメージなどが出されております。設備としては、トイレ、照明、音響、ステージなどのほか、悪天候に対応するための屋根が挙げられております。

2点目につきましては、活発に各種イベントが開催されるなど、にぎわい創出に向けてチャレンジミーティングなどで出された案を可能な限り反映してまいります。

3点目につきましては、広場周辺の方々や商店街、商工会議所などの関係者と適宜、意見交換を行いながら進めてまいります。

4番目の1点目につきましては、公共発注の市内調達を初めとして日常生活における市内消費、消費拡大イベント等の積極的な参加など地元で購買の喚起を行っております。

2点目につきましては、市内で購入できる商品やサービスについては、できるだけ地元事業者を利用することと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

それでは、2回目の質問に入らせていただきたいと思います。

大きな1番の1番目でございますが、先月、11月29日にJNTO日本政府観光局が取り組んでいる地域インバウンド促進事業で、糸魚川の訪日外国人観光関係者とインバウンドワークショップが開催されたようですが、今後はさらなる戦略・目標を持って今ある資源、糸魚川ジオパークを最大限に活用していかなければならないと考えますが、糸魚川はどの自治体と比べても観光資源においては優位にあると考えています。

ただ、地域の人が糸魚川の観光の魅力を一言で語るときに、キラコンテンツとなるものがあるとないとでは訴求力に断然差があらわれると思います。誘客のターゲットを絞ることも重要であると考えてます。今現在、24あるジオサイトを活用し、かつシナリオ、ストーリー性に富んだキラコンテンツとなる着地型観光商品があれば教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

東野議員ご指摘のとおり糸魚川にたくさんの地域資源があつて、一方でキラコンテンツがないというのも現状であります。そうした中で、ターゲットに対してどの商品を出していくかということが重要になってくると思います。例えば欧米の方ですと、日本の田舎といったものを、日本海側の田舎町といったものを売り出すということも大事だと思います。いずれにしましても、ターゲットを定める中で一番いい適切な資源を提案していくと、こういうことを中心に進めてきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

続いて、②番の質問に移らせていただきたいと思います。

全国津々浦々の自治体が、我が地域を観光地とうたっている中、糸魚川市は実際に観光地として売り込む戦略を持って取り組んでいるのか。今までのやり方、その他アプローチが今の状態で足りているのかどうか、お考えをお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今、中心にジオパークというキーワードの中で取り組みを進めています。この成果ということになりますと、ジオパークを始める前、教育旅行という形の中では、市外から、学芸員が対応した学校数等を見ますと5件ぐらいだったのが、昨年度でいいますと40件を超える学校等にお越しいただいてるという状況であります。そんな中で、なぜ糸魚川に来たんだと言われたときの回答が、ユネスコ世界ジオパークだから糸魚川に来たんだよといったようなお話も聞いております。

いずれにしても教育旅行は教育旅行のターゲットの絞り方がありますし、それ以外の一般客の場合は、また違う手法といったものもあろうかと思えます。それぞれターゲットを定める中で適切な対応をしていくと、興味を持たれるようなコンテンツを生かした誘客を進めていくことが肝要かというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

続いて、3番目の③の質問に入らせていただきたいと思います。

ある方からフリーライミングの聖地糸魚川、ジオパークに登ろうというタイトルで、糸魚川でフリーライミングのワールドカップの開催を目指すというわくわくするようなアイデアをいただきました。

フリーライミングの歴史はまだまだ浅く、一般的なスポーツではありませんが、近年メディアにも取り上げられる機会がふえ、愛好家が増加の一途をたどっています。いろいろな分野でターゲットを定めるということをお聞きしましたが、もしもアプローチが足りないとお考えであれば、真剣にワールドカップを誘致するなどして、交流人口の拡大とともに糸魚川市民が地元の魅力を再認識するきっかけにする具体的な仕掛け、取り組み、戦略、戦術が必要ではないかと考えます。

市長は、ジオパークを提唱して4期目、一定の成果は上げてきたと考えておりますが、新たな結果を出すために新たなステージにステップアップする時期ではないかとも考えております。具体的に、今後どのようなかじ取りをされていくのか、市長にお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

ンが明確になった協力隊員のあり方というのもございます。そういった意味では、今ほどの提案の協力隊につきましては、山岳の観光振興というテーマを持ってということであれば、可能だというふうには思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

それでは5つ目、⑤の再質問に入らせていただきます。

先般、清政クラブで視察させていただいた長野県飯山市の信州飯山観光局の職員の方も、まず軸となる着地型観光商品の提案を3つ用意しましょうということで教えていただきました。たった3つと感じるかもしれませんが、私はお話を伺ったときに、ただ3つの提案をつくるのであれば容易であるが、軸をつくるには単発で終わらせない繰り返し提案し続ける商品が必要であるというふうに考えました。本気になって軸となる提案を考えなければ、いつまでも糸魚川はインバウンド需要を見込めない、北陸新幹線沿線上のついでに立ち寄る観光地で終わると感じました。ついでの観光地にならないためにも、既に取り組んでいるとは思いますが、ジオパークを満喫しながら特定の体験ができるつちのこ探検隊やグランフォンド糸魚川のような、インパクトがあり交流人口の拡大にも成果が出ているイベントとインバウンドの観光を結びつけるなどして、お客様の観光の目的を明確に設定し、わかりやすくする必要があります。広く認知してもらうために継続していく努力と市民に関心を持ってもらえるような、わくわくする提案が必要であると思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

4万4,000人の市民の皆さんが、まさに糸魚川に来てもらえるようなわくわくした提案ということが、私どもの最後の目標かなというように思っております。それに向かって、例えば各地域で行われている祭り、そしてほかに行われてるようなイベント等にも支援をしながら、365日、糸魚川へ来れば毎日何かがあるといったものがつくれるようなことを目指しながら、今観光誘客に取り組んでいるところでございます。いずれにしましても、市民の皆さんと一緒に観光地づくりをできるように取り組んでいきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

これからの取り組みに期待しております。

続きまして、大きな2番の産官学金の連携の地方創生について、再度質問させていただきたいと思っております。

復興のまちづくりにとって大切な官の役割は、民間がビジネスをしやすい環境整備と盛り上げていこうという周辺への意識啓発であり、なりわいネットワークのような糸魚川の看板を有効に活用した広報活動であると考えます。平成29年4月1日から9月30日の6カ月間で、糸魚川商工会議所に創業に関する相談回数が窓口、巡回訪問において54回、14人の相談者が訪れたと伺いました。これらご相談を実現させるためにもエリアとしての価値の創造と主体性を持って取り組むまちづくりの提唱について、連携を図る関係機関への理解が必要であると考えますが、今現在、理解のほうは深まっているとお考えか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

まず、やはりこの地域を変えていくということを考えた場合には、行政だけで動いていても変わらないと。そこにはやはり議員おっしゃるように産官学金労言といったさまざまな団体との連携、そういったものは大変重要なことと思っております。じゃあどうやって連携するかということを考えると、やはりそこには情報の共有、同じ方向を向いて連携していかないと、それぞれ別々の方向を向いて連携していくとやはりかみ合わないような形になってくると思っております。そういう中で今、議員もおっしゃったなりわいネットワークであったり、創業支援ネットワークであったり、それから一つの事業として見れば、海洋高校との取り組みであったりということで、そういった連携というのは、全ての産官学金労言が連携するんじゃないくて、それぞれのネットワークの中で必要とする団体が連携するような形になればいいんだろうなというふうに思っております。

さらに、その一方で市との包括連携協定ということで金融機関とか大学、そういったところとも連携協定を結ぶ中で知恵をいただいたりして進めております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

これからも密にコミュニケーションをとっていただきながら情報共有、そして同じ方向を向いていかれるような提案をしながら前に進んでいただきたい、そのように連携を進めていただきたい、そのように思います。

大きな3番の質問の市民が集うにぎわい創出広場の活用と今後について、再質問させていただきたいと思います。

②番についてでございますが、私も全4回のうち商店街の立場として3回参加させていただきましたが、設備として屋根と電気は、電源は必須であると考えております。ぜひミーティングで出された意見をもとに、にぎわい広場を活用するであろうプレイヤーがその気になれる、価値のあるエリアにするべく環境整備を進めていただきたいと思います。こちら意見となります。

それに関連するんですが、にぎわい広場を今後建設していくに当たり、200立米の防火水槽のお話をいただいたんですけども、もし仮にその200立米の水槽をつくるとなると、建設は並行し

て同時に行うようなイメージなのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

今お話しいただきました200立米の防火水槽につきましては、前回の被災者の説明会におきましても皆さんにご報告申し上げたところであります。従来ですと40トン、60トンというところでありましたけども、今回、国のほうにおきましても200トンまでを補助で認めるよというふうなお話をいただき、糸魚川市としても早速、手を挙げさせてもらっているところでございます。

にぎわい広場の整備におきましても、やはり上物に、土地の上にもどのような構築物ができてくるかということもミーティングの中でご意見をいただきながら整理をしていきますけども、やはり防火水槽を先行する必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

私も商店街の立場として、あの広場は大いに使わせていただきたいと思いますので、これからの整備に皆さんが、大勢の人が集う広場になるように期待申し上げます。

続きまして、③番の近隣に住まわれてる方々、商店街、商工会議所の合意形成は図られているのかというところで、関連する再質問のほうをさせていただきたいと思いますが、12月1日に市民会館の3階で行われた宮本恭嗣氏の公民連携のセミナーに糸魚川復興まちづくりに説得力を持たせる意図が潜んでいると感じましたが、特定少数の方には公民連携の認知が進んだと思います。今後は、広く認知を深めていただきたいと思います。

今ほど産官学金の連携の質問の中でも述べさせていただきましたが、ビジネスのしやすい環境を整えることが官の役割であると申し上げましたが、一番心配なのが配置転換や人事異動による行政の継続性であります。20年、30年持続可能な糸魚川を実現させるためには、特例とも呼べる人員配置を行うことが必要であると考えております。なれたところに人材がかわってしまう。民間にとっては不安要素です。民間の企業は、資金がある限り、担い手がある限り事業を継続していかなければなりません。今後、復興のまちづくりを進めていく上で人員配置、人事の考え方をお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

行政、進めていく上では、先ほど来ありますように市民の皆さん、関係する事業者の皆さん、あるいは団体というネットワークの果たす役割が非常に重要であります。ネットワークづくりの中では職員の専門性であったり、あるいはネットワークの中での人脈であったりということが非常に重

要だと思っております。そういう視点も含めながら、もう一方では、将来に向けた人材の育成という面もございますので、その両面を、兼ね合いを見ながら人事配置をしていきたいという考えでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ちょっと極端な申し上げ方をしましたが、せっかくなれたのにどこかへ異動してしまうという声をよく聞くんですね。そういう中で人材の育成という部分では、いたし方ないことではあると思いますが、今本当にこれから復興のまちづくりがどうなっていくんだろうという不安の中、やっぱり完成形が見えない中、市民の皆さんは不安に感じている部分が多いと思いますので、細かいケアのもと人員配置についても考えていただければというふうにお願いしたいと思います。

それでは、大きな4番の地域高循環型社会の形成について、再度質問させていただきたいと思えます。

①番、②番の質問に関しましては、決して行政の皆さんに縛りを設けて、地域のためにそうしろという人権をも侵害するようなことを言いたいのではありません。最初にお断りしておきます。

ある糸魚川の金融機関の取り組みで、賞与が出る半期ごとに糸魚川市で丸々円以上のお買い物をしたレシートの提出を義務づける取り組みがあります。70名からいる職員さん全員でございます。「あなたのちょっとした心がけが糸魚川を変える」を合い言葉に日々頑張られている金融機関です。ご商売をされている方々からすると大変ありがたい地元消費に対する喚起であります。同時にこの取り組みは、ご商売をされている方へのお客様が満足するサービスを提供してくださいという力強いエールとも受け取れます。金融機関は企業にとっての血液の役割を果たしてくれる重要なパートナーです。お互いを尊重することで、好循環をつくろうと努力していただいています。糸魚川市においても歯どめのきかない人口減少問題が迫る中、マクロな視点で有効な経済政策の実行も必要ですが、まずは市民一人一人がやれること、それをお示しするのが糸魚川一の企業、糸魚川市役所であると思えます。

先般の糸魚川バル街において、多くの行政職員の皆さんとお会いできたことは大変うれしく思いました。あのイベントはご存じかと思いますが、被災されてしまった方が先頭に立って主催しております。もちろんご本人はそのようなことを一切言わず、糸魚川を笑顔にしようと頑張られています。そのエネルギーの源は、昨年の大火以降、被災された方々に行政職員の皆様が最大限の施しをしてくださったからだと思っています。

地域高循環型社会とは、金銭の循環だけではないと思えます。昨年の大火からも学びましたが、人間的な情緒も高循環型社会をつくる上で大切な要素だと思っています。行政職員の皆様は、誰よりも糸魚川のことを考えてると思えます。全てにおいて動機が変われば縛りなどなくとも行動が変わります。

4期目となる米田市政には、このような高循環型社会の形成も期待しておりますが、米田市長いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

東野議員のご質問、みんな関連がございます。本当に私もそのとおりに感じとる次第でございます。市の職員におきまして非常に地域を愛する気持ちは市民の皆様方と同じでございます。例えばプレミアム商品券を買うというときには行列ができるほど並ぶわけでございます。それは全て市内の商店に入っていく部分がございます。

しかし、そうは言ってもやはり品ぞろえ、そういったいろいろなことを考えますとどうしても市外に出ることが結構多いわけございまして、そういったところをもうちょっとやはりこの買い手と売り手がもうちょっと情報交換をして、なるべく市内で買っていただけるような環境をつくっていくことが大事かなと思っておる次第でございます。その辺は商店街というよりは商工会議所の皆様方とまた少し連携をしながら、そういう環境をつくっていくことが大事かなと思っております。決して市内の皆様方におかれましても、よそで買うというのはやはり基本じゃないだろうと思っております。一番身近で買えるのが一番いい環境なんだろうと思っておる次第でございます。どうかそういったところを、これは行政だけでできるものではございませんが、その商店街の皆様方とそういったところをやはりもう少し情報交換をする場もあっていいのではないかなと。本当に真剣にそういったところを話しながら地元で買っていただける環境というのもつくっていただく。また、そして地元で金を絶対落とすんだというような形になっていければ非常にありがたいと思っておる次第でございますので、これからそういった方向を進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

米田市長、ありがとうございます。続けて情報交換をしながら、皆さんで高め合える社会の形成をしていきたいと思っております。

私も地域高循環社会を形成するべく1人の糸魚川市民として、市民の皆様とはもちろん、行政の皆様ともお互いを尊重できるパートナーとなれるように努力したいと思います。そして、チェックも頑張りたいと思います。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

関連質問なしと認めます。

暫時休憩いたします。

再開を13時といたします。